

15 ごみ処理施設の設置及び管理運営に関すること



主管：木曾クリーンセンター

経緯

統合された木曾クリーンセンターの老朽化に伴い、平成 23 年度より新ごみ焼却施設建設整備検討委員会を設置し、延べ 24 回の会議を重ねた結果、隣地にあった木曾町温水プール跡地に地元の同意を得て新ごみ処理施設を建設し、平成 30 年 4 月より本格稼働を開始しました。

旧施設の南部クリーンセンターを平成 30 年度、木曾クリーンセンターを令和 2～3 年度にかけて解体事業を実施、その後旧施設跡地にリサイクルストックヤード建設を行い令和 4 年 1 月より運用を開始しました。

現状と課題

木曾クリーンセンターは、24 t/日の処理能力のうち、災害ごみの処理を考慮して 20 t/日以下まで処理量の減量化（計画）を考えています。令和 3 年度は 5,251t（21.5 t/日）のごみ量であったので、さらにリサイクルを推進し、一般廃棄物処理基本計画に沿ったごみの減量化を進める必要があります。

不燃ごみ処理施設は、平成 4 年度の稼働から 30 年が経過しており、老朽化による今後の維持管理が困難になると予測されるため、令和 4 年度に実施した不燃処理施設の精密機能検査結果に基づき、今後の施設のあり方検討を行う必要があります。

また、ガラスや陶器の破砕物は、王滝村にある安定型最終処分場で埋立てを行っていますが、埋立容量残量を含め、今後のあり方について、計画の見直しや管理方法について検討が必要となります。

木曾郡の廃棄物処理を継続するにあたり、廃棄物処理に係る職員の育成を図るとともに、民間委託を含めた職員配置を早急に行い、適切な廃棄物処理運営を行う必要があります。

焼却残渣や飛灰の処理については、東日本 2 箇所、西日本 1 箇所で、有事の際を考慮して、リスクの分散を図っています。

今後の方針

ごみ処理施設の適切な施設維持運営を図り、令和 4 年 1 月に運営を開始したリサイクルストックヤードの利活用を含めた資源循環を推進します。

不燃処理施設の老朽化による機械更新には多額の費用が必要なため、施設のあり方について建設費や維持管理費を含めた検討を行います。

施策

- 1 廃棄物処理施設全体の適正な運営管理及び施設運営方針を検討します。
- 2 ごみ減量化を推進します。
- 3 リサイクルストックヤード活用により、再資源化へ誘導します。